

重要文化財指定記念特別展

鈴木其一・夏秋溪流図屏風

Special Exhibition Commemorating Designation as an Important Cultural Property
Suzuki Kiitsus' Mountain Streams in Summer and Autumn



鈴木其一（1796～1858）の筆になる「夏秋溪流図屏風」は、岩場を削る水流のある檜の林を確かな現実感をもって描いた画面に、異様な感覚を抱かせる描写が充満する作品です。鮮やかな青に粘り気のある金の細線が走る溪流、今にも溶け落ちそうな緑の土坡、鋭角的に縁取られた金色の地面、檜の幹や岩に付着する無数の苔、大きすぎる百合、単純化された熊笹、右隻右から三扇目の檜に真横向きにとまる蟬……。

其一は、江戸の地で、一世紀前の京都で活躍した尾形光琳（1658～1716）を顕彰し、「江戸琳派」の祖となった酒井抱一（1761～1828）の高弟ですが、徹底した写実表現やシャープな造形感覚、ときに幻想的なイメージを加え、個性を發揮しました。しかし一方で、その作品は、江戸琳派風に収まる作例が多くを占めるのが実情です。そして、そこから逸脱した「夏秋溪流図屏風」こそが、其一のイメージを支えています。本作品は其一の唯一無二の代表作にして、最大の異色作でもあるのです。

2020年、この「夏秋溪流図屏風」が重要文化財に指定されました。これを好機として、本作品誕生の秘密を探る展覧会を開催します。抱一の影響や光琳学習はもとより、まるやま おうきよ たに ぶんちよう、古い時代の狩野派など琳派以外の画風の摂取、そしてそれらを、自然の実感も踏まえつつ統合する其一の制作態度を検証して、本作品に指摘される「奇想」に、美術史的な解説を試みます。

2021年11月3日(水・祝)～12月19日(日) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

鈴木其一 最大の異色作にして代表作



重要文化財
なつあきけいりゅうずびょうぶ
夏秋溪流図屏風
鈴木其一筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 19世紀
根津美術館蔵

溪流が流れる檜の林。右隻は山百合の咲く夏の景、左隻は桜の葉が赤く染まる秋の景。一見、写実的な画面だが、粘度を感じさせる溪流をはじめ、奇妙な表現が溢れる。右隻中程の檜に止まる蟬も、画面に静寂感を与えるばかりである。

「夏秋溪流図屏風」誕生の秘密を探る

師・抱一の光琳イメージ



せいふうしゆふうずびょうぶ
青楓朱楓図屏風
酒井抱一筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 文政元年(1818)
個人蔵

本屏風と同じ図が、抱一自ら編んだ『光琳百図』後編に掲載され、実見した光琳画に基づいて制作されたとわかる。金に映える強い色彩感や、熊笹などの表現が似た「夏秋溪流図屏風」は、19世紀における光琳イメージを反映している。

応挙の「絶筆」を其一は見たか



重要文化財 ほづがわすびょうぶ
保津川図屏風
円山応挙筆
8曲1双 紙本墨画淡彩
日本・江戸時代 寛政7年(1795)
株式会社千總蔵

円山応挙(1733~95)が、没する年に描いた生涯最後の大画面作品。奔流が一双屏風の左右と奥から中央に向けて流れくる構成が、「夏秋溪流図屏風」と共通する。応挙の写生画風の影響は抱一に及んだが、其一も応挙を崇敬した。

作品を解き明かす新しいピース



かほくけいりゅうずびょうぶ
花木溪流図屏風
山本素軒筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17~18世紀
個人蔵

隆起する緑の地面に、画面枠でトリミングされた木々が林立する構図が「夏秋溪流図屏風」に酷似する。筆者の山本素軒(?~1706)は、尾形光琳が画技を学んだという説もある京都の狩野派の画家。複雑な影響関係が想像される。

自然の一瞬をえがく、透徹した美意識



重要文化財 なつあきくさ びょうぶ 夏秋草図屏風
酒井抱一筆
2曲1双 紙本銀地着色
日本・江戸時代 19世紀
東京国立博物館蔵
※展示期間：12/7(火)～19(日)

しゅうりゅう 驟雨に打たれる夏草と野分に吹かれる秋草を描く、透徹した美意識。「夏秋溪流図屏風」は、この抱一の代表作に通底、ないしそれと対照的な表現で成り立っている。

川と瀧、そして古画に魅せられた西国の旅



きし さいゆう にっき 癸巳西遊日記
すずき しいつ 鈴木其一 鈴木守一写
5冊のうち 紙本墨画ほか
原本：日本・江戸時代 天保4年(1833)
京都大学附属図書館蔵 谷村文庫
※会期中にページ替えあり

天保4年(1833)に其一が西日本を旅した時の記録。古画とともに、川や瀧のスケッチを多く見出せる。「夏秋溪流図屏風」は、この約10年後に描かれた。



かいいん ないぜんす 檜蔭鳴蟬図 谷文晁筆
1幅 絹本着色
日本・江戸時代 19世紀
公益財団法人阪急文化財団
逸翁美術館蔵

醒めた画面に蝉が鳴く

檜に止まる一匹の蟬。繊細な描写のもとに立ち現れる醒めた画面感情は、「夏秋溪流図屏風」を先取りする。谷文晁(1763～1841)は、其一の師・抱一と親交した。

「夏秋溪流図屏風」につながる鋭敏な季節表現

おうかかえりざきず せんめん 桜花返咲図扇面
鈴木其一筆
1幅 紙本着色
日本・江戸時代 19世紀
細見美術館蔵



葉が赤や黄に色づく秋に、季節外れの花を咲かせる桜。若き日の其一の繊細な感性や描写力を示すとともに、「夏秋溪流図屏風」に散る桜紅葉を予見させる。

その他の主な展示作品—多彩な画業、初公開作品も多数

- ・ ちゅう しゅうやくず 蝶に芍薬図 1幅 板橋区立美術館蔵 ※※
若き其一の高い画技が表出する陶然たる情景
- ・ ざつが かん 雑画卷 4巻 個人蔵 展覧会初公開 ※※※
円山派、四条派、狩野派…。多彩な絵画学習の痕跡
- ・ さんすいす 山水図 1幅 大倉集古館蔵 ※※
中国絵画との真摯な対峙を確信させる緻密な描写
- ・ きくず 菊図 1幅 個人蔵 展覧会初公開
「夏秋溪流図屏風」と同じ、其一のパトロンの商家に伝来
- ・ じゅうろう だいく えびすず 寿老・大黒・恵比寿図 3幅 個人蔵 ※
円山応挙の作品を、その氣品もあわせて写す

- ・ せんそうじ せつぶんす 浅草寺節分図 1幅 個人蔵 展覧会初公開 ※
江戸の風俗を、卓抜した構図感覚と洒脱な筆致で描く
- ・ うちゅうぼ たんす 雨中牡丹図 1幅 個人蔵 展覧会初公開 ※※
雨に打たれる白牡丹。技巧が冴える得意の画題
- ・ あきくさ つき なみ すびょうぶ 秋草・月に波図屏風 2曲1隻 個人蔵 展覧会初公開
趣向にも富む其一の草花図の優品に、酔いしれる
- ・ ぐんかくす びょうぶ 群鶴図屏風 2曲1隻 個人蔵 展覧会初公開
最晩年の其一の「奇想」が横溢する作品

* 11/3(水・祝)～11/28(日)に展示
** 11/30(火)～12/19(日)に展示
*** 会期中に巻替え

同時開催展

展示室5

特に墨蹟とも呼ばれる禅僧の書。書かれる詩文は宗教的なものにとどまりません。高僧たちの個性あふれる書を、多彩な内容とともに楽しみください。



やしゅうどうかんぼくせき とし
野舟道間墨蹟 杜詩
1幅 紙本墨書
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

中国・元時代の禅僧・野舟道間が、唐時代に活躍した詩人の杜甫の詩を書いた一幅。禅僧たちは唐詩などの古典に精通した文化人でもあった。

筆墨の魅力—禅僧たちの書—

冬を迎える11月、茶室では炉を開き、席中を一新します。今期、はじめての炉の使用を祝う「炉開き」の茶会にふさわしく、格式高い茶道具を取り合わせます。



せめひもかま
責紐釜
天明 1口 鉄
日本・室町～桃山時代 16世紀
根津美術館蔵

責紐とは、貴人に献茶をする時、紐で封をするために、口の際に鑲付を付した釜のこと。下野国（栃木県）佐野天明で作られた本釜は、侘びた肌合いが特徴。

展示室6

炉開き—祝儀の茶会—

開催概要

展覧会名	重要文化財指定記念特別展 「鈴木其一・夏秋溪流図屏風」 すずき きいつ なつあきけいりゅうずびょうぶ
日時指定予約制	ご来館前に当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
主催	根津美術館
開催期間	2021年11月3日 [水・祝]～12月19日 [日]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1500円(1300円) 学生 1200円(1000円) ※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1600円)を美術館受付で販売いたします。 ※10月29日(金)より当館ホームページで予約を受け付けます。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問合せ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>



文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報へどうぞお知らせください。
(press@nezu-muse.or.jp)

次回展 企画展「文様のちから—技法に託す—」

2022年1月8日(土)～2月13日(日)



文様とそれを生み出す技法は、切っても切れない関係にあります。本展では文様と技法の関係について、それぞれの立場から探ります。

同時開催：

展示室5「百椿図—初公開の『邸内遊楽図』とともに—」
ひやくちんず

展示室6「茶湯始—新年を祝う—」
ちやのゆのはじめ

茶地立涌雪持松模様縫箔
日本・桃山～江戸時代 17世紀 根津美術館蔵